

令和7年度第5回

流山市在宅医療介護連携推進会議

流山市役所健康福祉部介護支援課
令和8年3月16日

【議題2】流山市在宅医療介護連携推進事業
令和7年度事業報告と次年度事業計画策定に向けて

- 1 令和7年度の取り組みと振り返り
- 2 令和7年度の取り組みからみえた課題と
令和8年度取り組み（案）

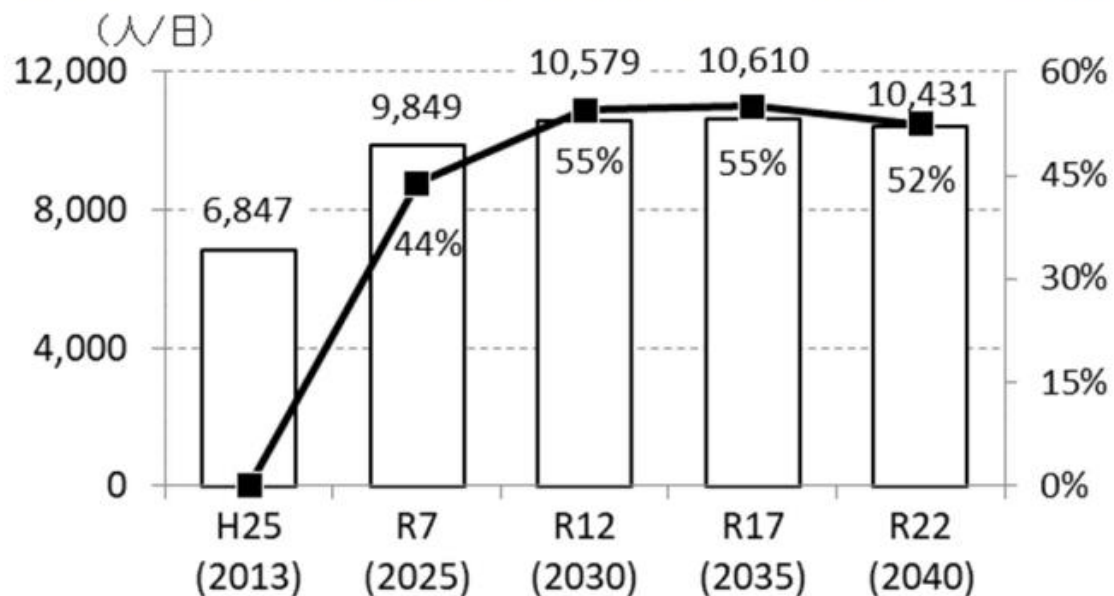
流山市在宅医療介護連携推進事業 理念

医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心・安全に自分らしく生活ができる。

希望すれば、最期は自宅で亡くなることができる

東葛北部保健医療圏における医療提供体制

図表 3-2-1-1 入院患者数の推移と変化率（東葛北部）



「地域医療構想策定支援ツール」（厚生労働省）により推計。

図表 3-2-1-2 4 機能別の医療提供体制（東葛北部）

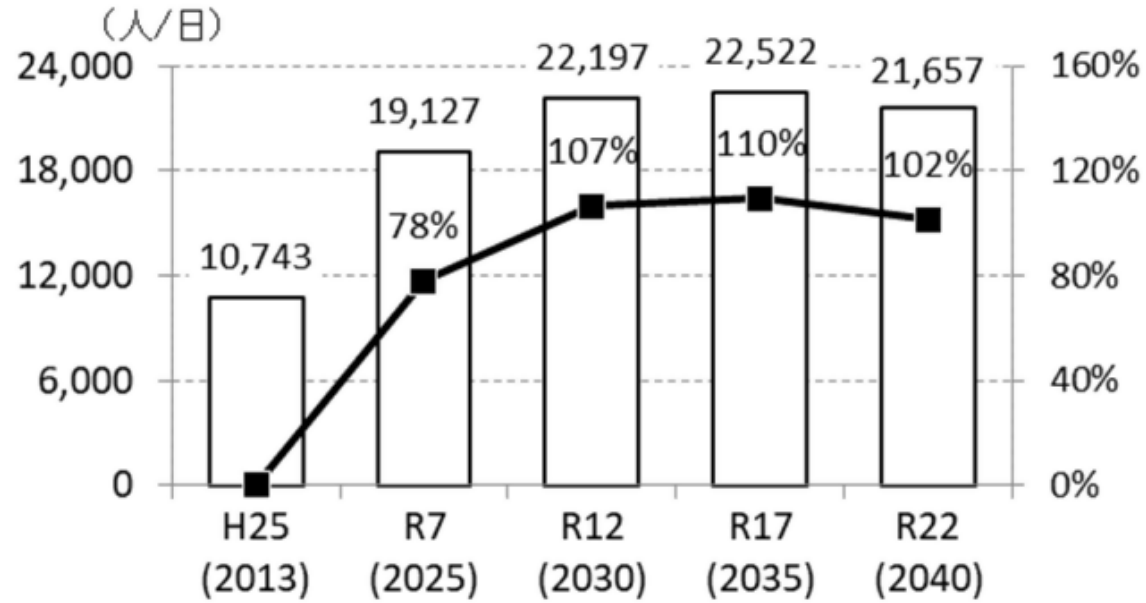
(単位：床)

医療機能	必要病床数 (R7年)	令和4年度 病床機能報告 (R4.7.1)	差し引き
	A	B	B-A
高度急性期	1,386	2,024	638
急性期	4,227	4,217	▲ 10
回復期	3,647	1,226	▲ 2,421
慢性期	2,439	2,075	▲ 364
休棟等	-	657	
計	11,699	10,199	▲ 1,500

出典：千葉県保健医療計画（令和6年4月）別冊・地域編第3章

東葛北部保健医療圏における医療提供体制

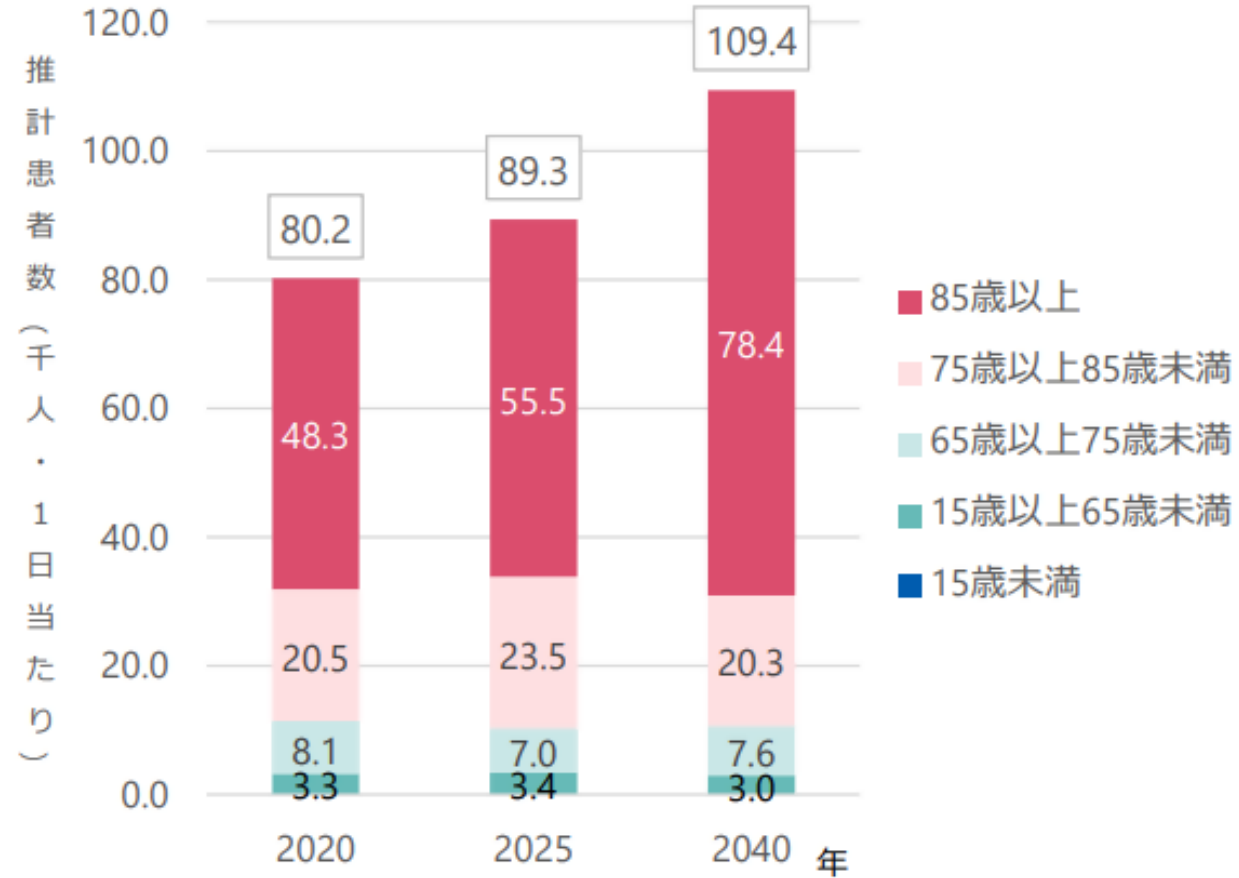
図表 3-2-1-3 在宅医療等需要推移と変化率（東葛北部）



「地域医療構想策定支援ツール」(厚生労働省)により推計。

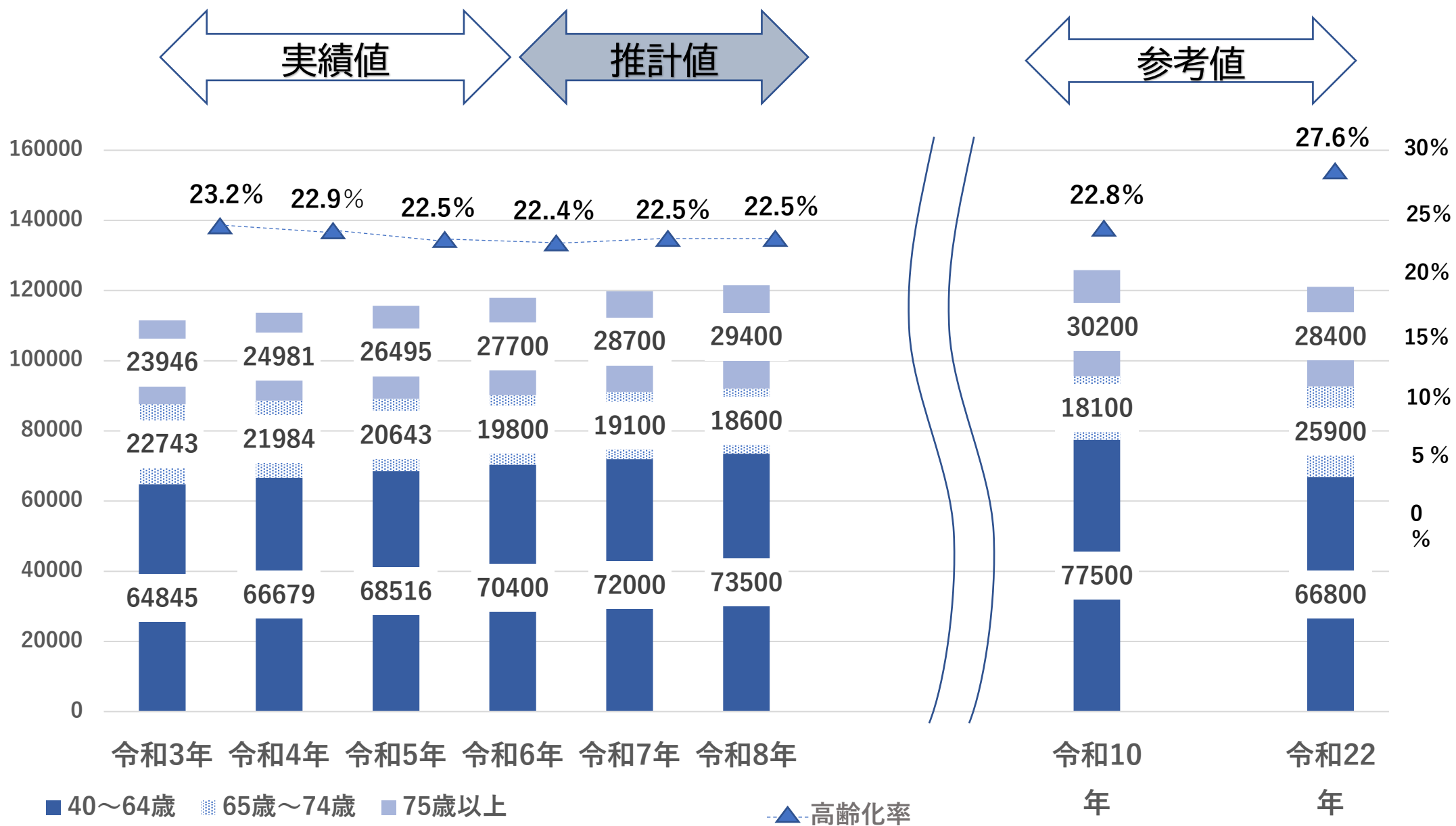
出典：千葉県保健医療計画（令和6年4月）別冊・地域編第3章

年齢階級別の訪問診療患者数の将来推計

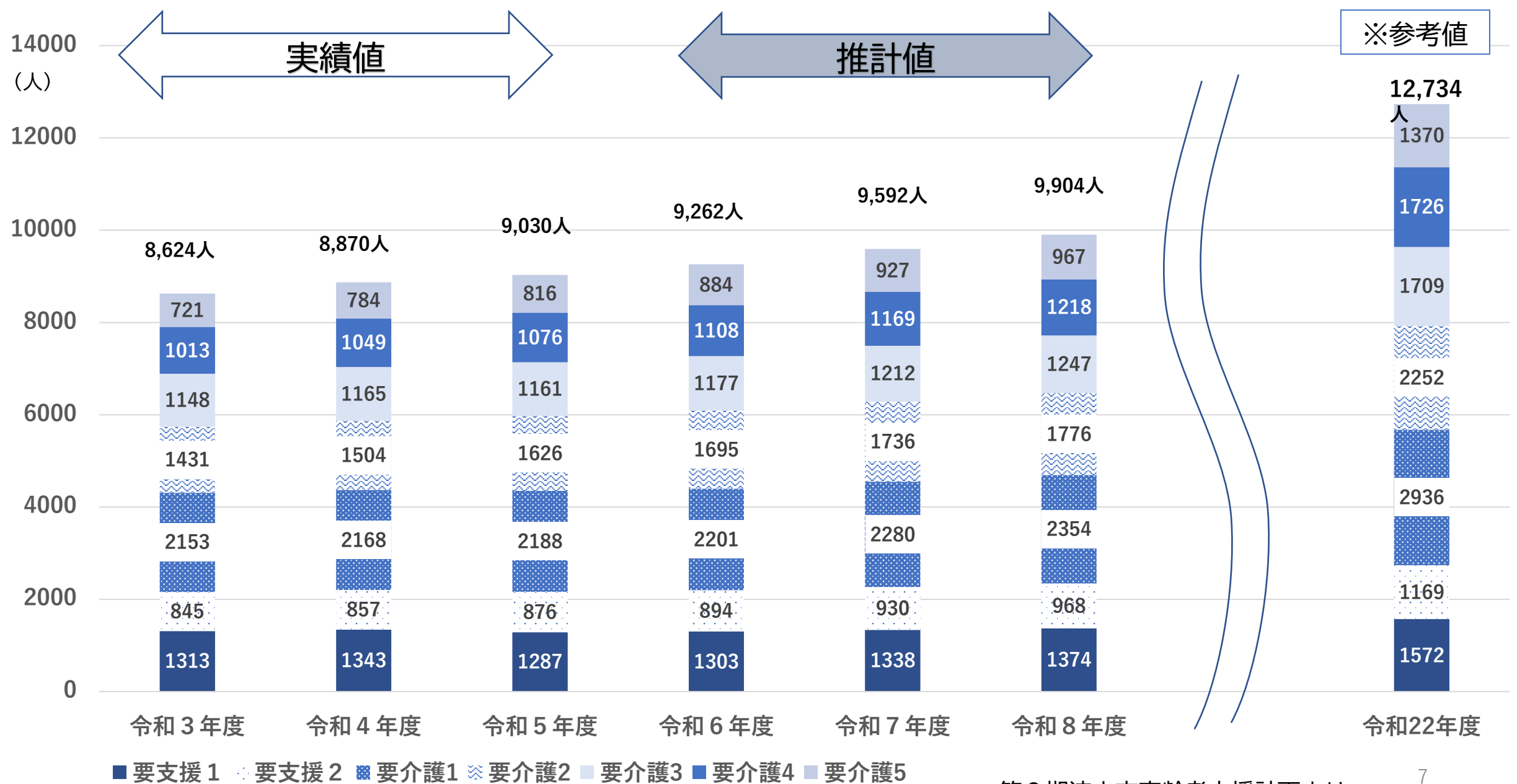


出典：在宅医療・介護連携推進支援事業研修会議Ⅰ行政説明3「在宅医療と介護の連携体制の構築に向けて」

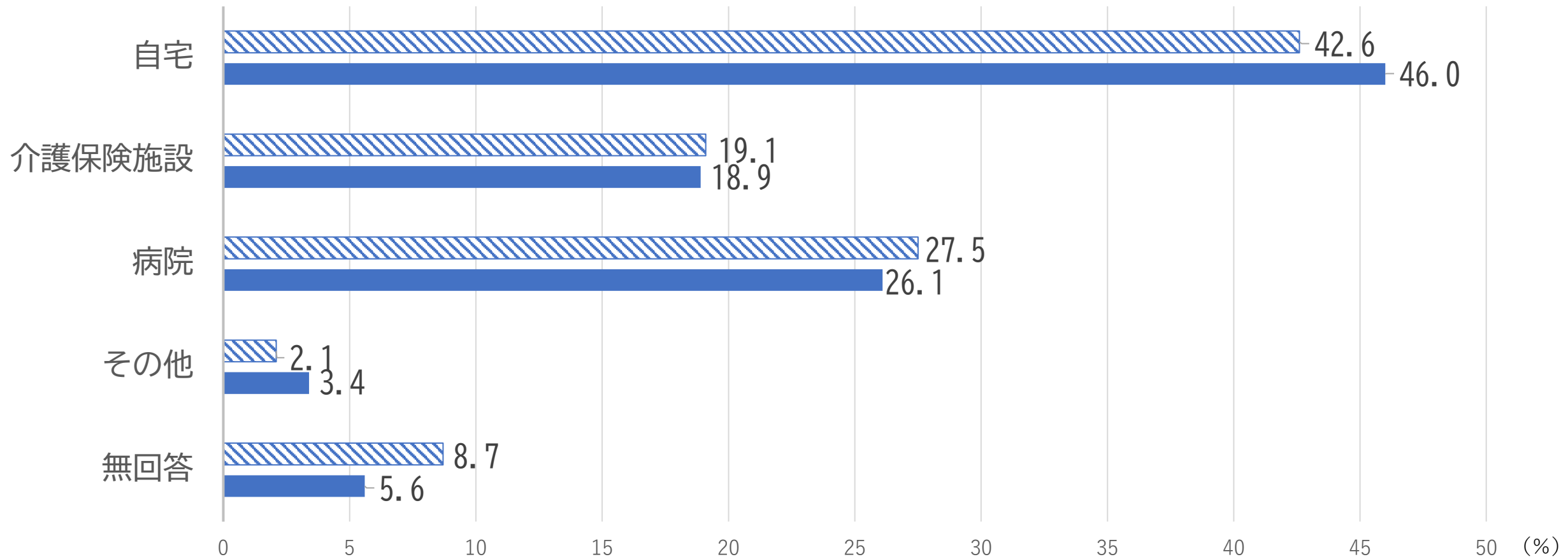
流山市の高齢者数等の推移



流山市の介護度別にみた認定者数の推移



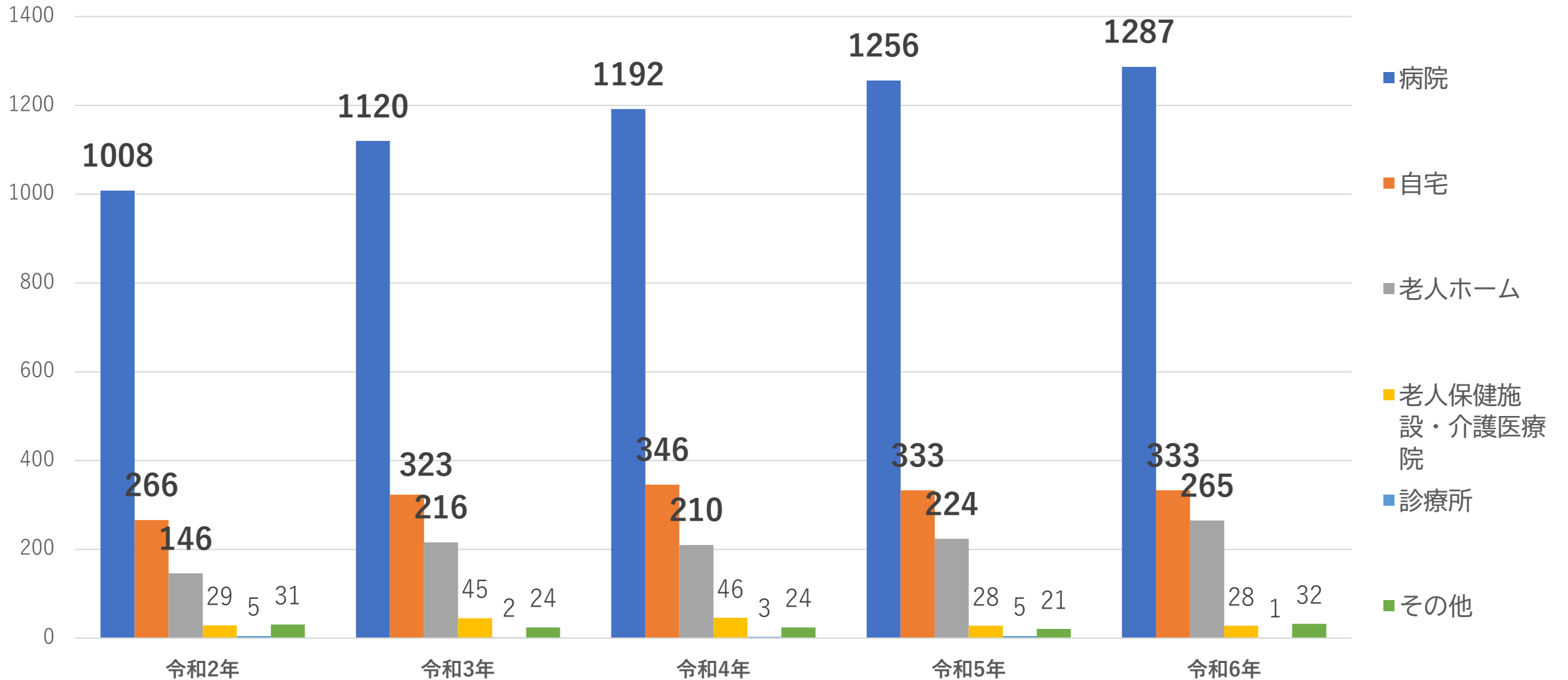
人生の最期をどこで迎えたいか（市民の意識・ニーズ）



■ 要支援・要介護認定を受けて在宅で生活されている65歳以上の高齢者 n=629 ■ 要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者 n=1,577

流山市民の場所別死亡者数

千葉県衛生統計年報より



病 院 …医師又は歯科医師が、公衆又は特定多数人のため医業又は歯科医業を行う場所であって、20人以上の患者を入院させるための施設を有するものをいう。

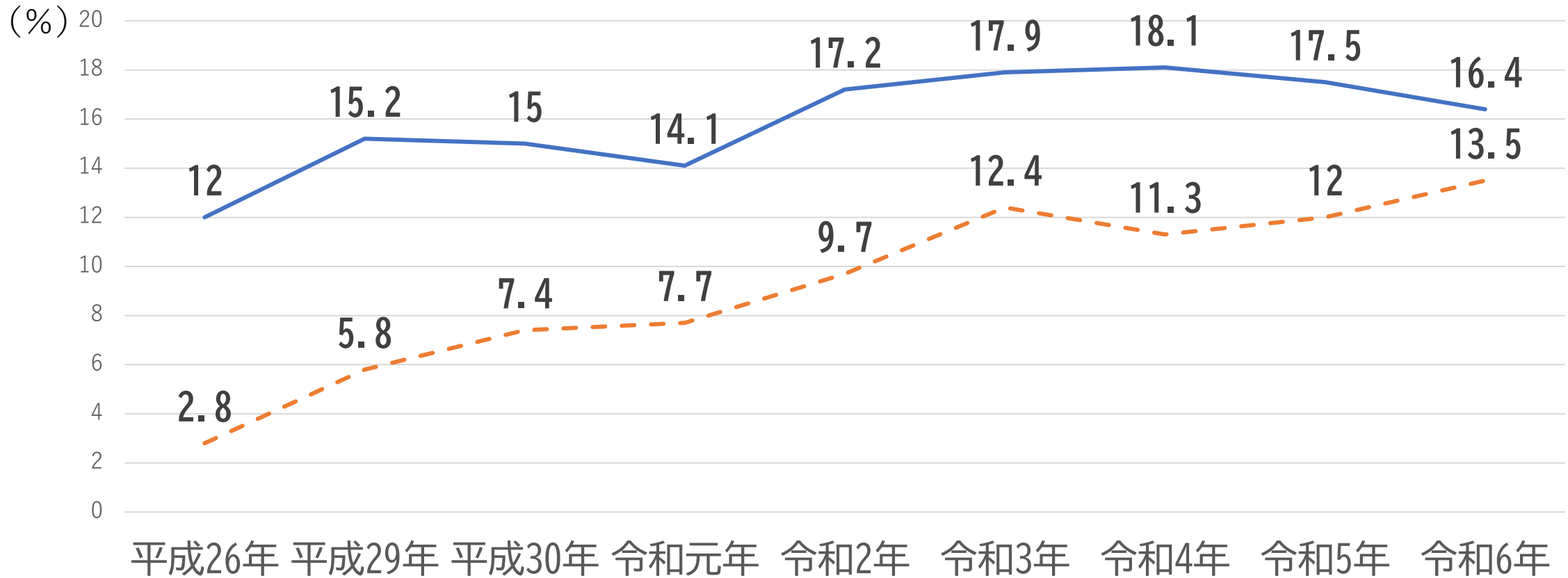
診 療 所 …医師又は歯科医師が、公衆又は特定多数人のため医業又は歯科医業を行う場所であって、患者を入院させるための施設を有しないもの又は19人以下の患者を入院させるための施設を有するものをいう。

介護老人保健施設…要介護者に対し、看護、医学的管理下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とした施設で、介護保険法による都道府県知事の許可を受けたものをいう。

老 人 ホーム …養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホームをいう。

*施設の種類の「厚生労働省」人口動態調査より抜粋

自宅及び老人ホームでの看取り率



— 自宅看取り率 - - - 老人ホーム看取り率

千葉県衛生統計年報より市独自に算出

- ・自宅での看取り率=流山市で亡くなった人数のうち、不慮の事故と自殺を除いた自宅で亡くなった方の割合
(自宅－不慮の事故－自殺) ÷ 総数
- ・老人ホームでの看取り率=流山市で亡くなった人数のうち、不慮の事故を除いた老人ホームで亡くなった方の割合
(老人ホーム－不慮の事故) ÷ 総数

※小数点第2位四捨五入

地域の現状と今後

◆在宅医療を取り巻く現状

- ・市民の多くは自宅での療養を希望・死亡場所の多くは病院

◆看取り場所の変化

- ・自宅看取りは減少・施設看取りは増加

◆今後の見込み

- ・高齢者人口の増加・療養病床の減少・在宅医療の需要増加

→地域で療養・看取りができる体制づくりは引き続き重要

在宅医療介護連携推進事業の取組み

アクティビティ

アウトプット

中間アウトカム

最終アウトカム

委員による各職能への働きかけ

つむぐ会開催、ICTシステムの活用推進

市民公開講座、出前講座、おうち療養情報紙

施設看取りケア研修会、看取り症例検討会、消防との連携、救急情報カードの活用推進

職能団体内の理解促進・活動者の増加

医療・介護の専門職の知識・技術の向上、情報共有の促進

医療・介護の専門職種間での職域理解・多職種連携促進

市民の在宅療養・人生会議（ACP）について理解

施設・在宅での看取り増加救急との連携促進

バックアップ

安心材料

安心材料

在宅療養の質の向上・連携の強化

市民が在宅療養を「希望」から現実として考えられるようになり、在宅療養者が増加する

- ・施設からの救急搬送が減る
- ・予想される急変の場合、あらかじめ決められた方法で対応することができる
- ・情報連携によりスムーズな救急搬送につながる

市民啓発

人生会議（ACP）推進

情報共有

多職種連携

市民が在宅療養や人生会議（ACP）について知ることができる

医療・介護関係者が人生会議（ACP）に関する意思決定支援を実践できる

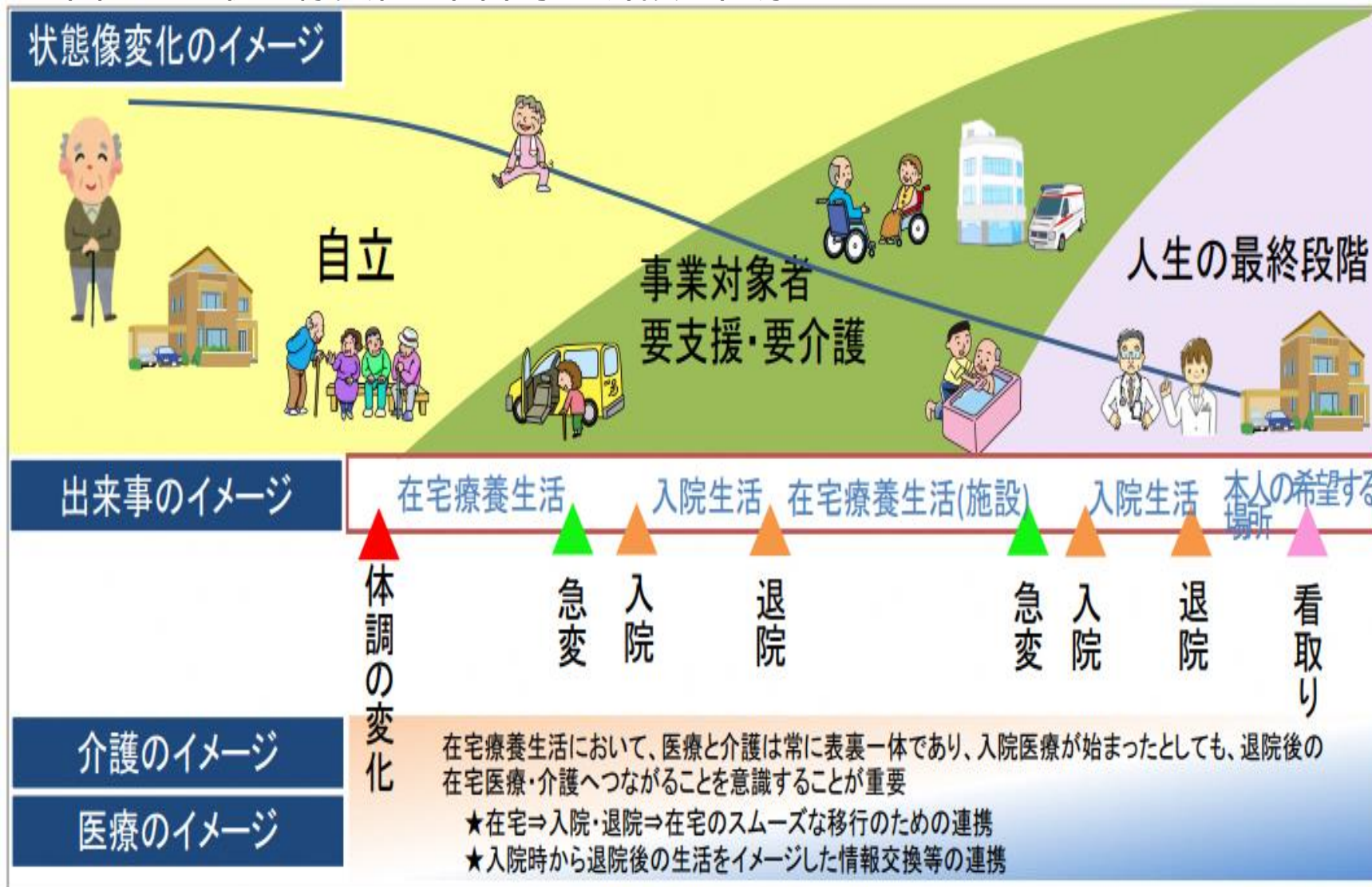
医療・介護関係者間でスムーズに情報共有できる

病院・在宅・施設・消防関係者間で連携を深めることができる

医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心・安全に自分らしく生活することができる。
希望すれば最期を自宅で迎えることができる。

（在宅療養者を人生の最期まで支える24時間365日緊急対応可能な医療と介護の連携システムの構築を図る）

図24 状態像変化・出来事・介護・医療イメージ



<p>日常の療養支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種協働による患者や家族の生活を支える観点からの在宅医療・介護の提供 ・緩和ケアの提供 ・家族への支援 ・認知症ケアバスを活用した支援 	<p>入退院支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院医療機関と在宅医療・介護に係る機関との協働・情報共有による入退院支援 ・一体的でスムーズな医療・介護サービスの提供
<p>急変時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の病状の急変時における往診や訪問看護の体制及び入院病床の確認 ・患者の急変時における救急との情報共有 	<p>看取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた自宅や介護施設等、患者が望む場所での看取りの実施 ・人生の最終段階における意思決定支援

**達成すべき目標を
4つの場面ごとに
設定することが重要**

4つの場面ごとの目標

4つの場面	目標
日常の療養支援	医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた場所で生活ができるようにする。
入退院支援	入退院支援の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする高齢者が、希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。
急変時の対応	医療・介護・消防（救急）が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする。
看取り	地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解をしたうえで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人（意志が示せない場合は、家族）と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。

1. 令和7年度の取り組みと振り返り

4つの場面	中期目標	令和7年度実績報告
共通	資源	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 在宅医療についてのホームページの再編 ◆ ハラスメント防止リーフレット（改訂版）の発行 ◆ 在宅医療提供医療機関パンフレット第1.1版の発行
	情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報共有システム（カナミック）に関する取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ及び利用手引きの改訂 ・登録率の低い種別の事業所への郵送やつむぐ会、症例検討会等でのチラシ配布 ・連携型BCPのためのカナミックIDの付与および運用開始 ・研修会の開催
日常の療養支援	多職種連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護と医療をつむぐ会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 第1回「ICTを活用した多職種連携について」45名参加 第2回 市民公開講座と同時開催 第3回「支援の風の入れ方～離れる・あきらめる勇気も必要な支援～」 （日中開催）67名参加 第4回「災害時対応～在宅療養者への支援～」74名参加 ・グループワークの話し合い内容をつむぐ会だよりに掲載

1. 令和7年度の取り組みと振り返り

4つの場面	中期目標	令和7年度実績報告
日常の療養支援	市民啓発	<p>◆ 市民公開講座 「住み慣れた地域で私らしく生きるために ～人生会議とアドバンス・ライフ・プランニングのすすめ～」</p> <p>講師 三浦靖彦氏 中村恵氏 参加者 82名（会場 65名+録画申込 17名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド配信あり ・CM動画やデジタルサイネージを活用した周知 ・講義の後に、参加者全員でもしバナゲーム実施
		<p>◆ おうち療養情報紙の発行（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 市民公開講座の内容（人生会議）紹介/救急隊の仕事紹介/救急情報カード
		<p>◆ おうち療養情報講座（行政出前講座） （開催回数 6回/参加者数 延べ129名）</p>
	その他	<p>◆ 認知症初期集中支援チーム検討部会の開催</p>

1. 令和7年度の取り組みと振り返り

4つの場面	中期目標	令和7年度実績報告
入退院 支援	情報共有 多職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 流山版地域生活連携シートの発行 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院相談員連絡会・シルバーサービス事業者連絡会居宅介護支援事業部合同研修会にて意見を聴取 ・ 令和8年3月に改訂版連携シートを発行予定 ◆ 入退院時多職種連携フロー表の作成に向けた検討
		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 病院相談員連絡会 年間テーマ【権利擁護】 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 ACPについて/ディスカッション～所属機関内・地域での情報共有に向けて～ 第2回 シルバーサービス事業者連絡会居宅介護支援事業部合同研修会 第3回 施設紹介仲介業者の役割理解
看取り	多職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高齢者住まい看取りケア研修会（23名参加）
		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 在宅療養・看取り推進のための症例検討会（4回/年 延べ65名参加）
災害 発生時	情報共有 多職種 連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 在宅医療介護連携会議において福祉と防災の連携について課題や取り組みを検討 ◆ 在宅医療介護連携会議 臨時会の開催 ◆ 第4回つむぐ会では災害時対応をテーマに事例検討を実施

1. 令和7年度の取り組みと振り返り（各部会ごと）

部会	多職種連携・体制構築	研修啓発	
班	病診施連携	専門職研修	市民啓発
目標	在宅療養、看取りを支えるチームを作る	医療職と介護職が連携し、協働できる関係を作る〈多職種でグループワークを行う研修の開催〉	市民が、在宅療養や人生会議（ACP）について理解・関心を深める
取り組み（概要）	全体会等から抽出された課題について、目標実現のための取り組みを検討し実行。	つむぐ会の企画・立案・開催	市民公開講座・おうち療養情報紙の企画・立案・開催
具体的取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看取りのためのチーム作りを目的として圏域ごとに症例検討会を開催 第1回（東部）9月24日（21名参加） 第2回（南部）10月23日（20名参加） 第3回（中部）2月13日（13名参加） 第4回（北部）2月20日（11名参加） 高齢者住まい看取りケア研修会（23名参加） 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回「ICTを活用した多職種連携について」（45名参加） 第2回 市民公開講座と同時開催 第3回「支援の風の入れ方～離れる・あきらめる勇気も必要な支援～」（日中開催）（67名参加） 第4回「災害時対応～在宅療養者への支援～」（74名参加） 	<ul style="list-style-type: none"> 市民公開講座「住み慣れた地域で私らしく生きるために～人生会議とアドバンス・ライフ・プランニングのすすめ～」 講師 三浦靖彦氏 中村恵氏 参加者 82名（会場 65名+録画申込 17名） おうち療養情報紙発行
課題	症例検討会や看取り研修などで挙げられた課題をどのように取り組みに反映させていくか。また、コロナ禍を経た現在の入退院時の他職種連携における課題をどのように把握するか。	つむぐ会の参加者数の減少や、参加者の固定化、病院関係者の新規参加につながらないなど、つむぐ会を活性化する手立ての検討。	在宅療養、人生会議（ACP）に関する認知度が低い現状に対し、情報をどのように届けるのか、市民への発信、周知方法（媒体・頻度・手段）の検討。

2. 令和7年度の取り組みからみえた課題 令和8年度取り組み（案）（中期目標ごと）

（1）市民啓発

（2）人生会議（ACP）推進

- ・在宅、施設での看取り推進について

（3）情報共有

- ・情報共有システム（カナミック）の活用推進について

（4）多職種連携

- ・入退院連携について
- ・つむぐ会の活性化について

（5）災害時対応

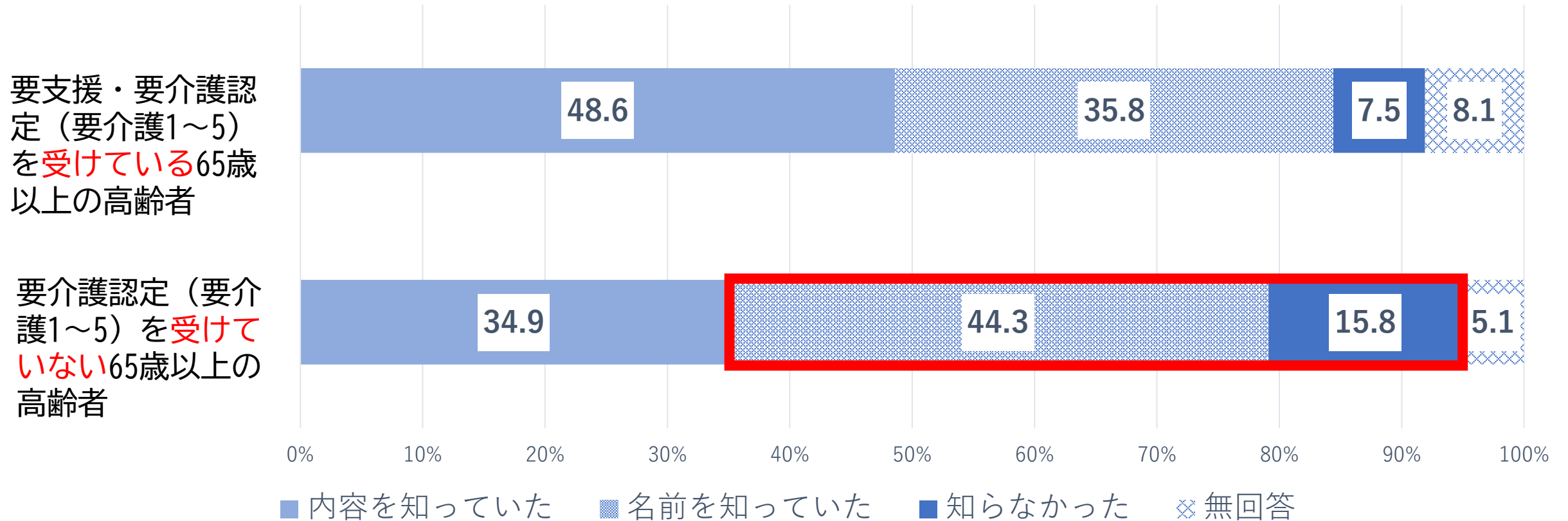
【中期目標①市民啓発】

市民が在宅療養や人生会議（ACP）について知ることができる

(1) 「市民啓発」について令和7年度の取り組みからみえた課題

市民在宅療養認知度

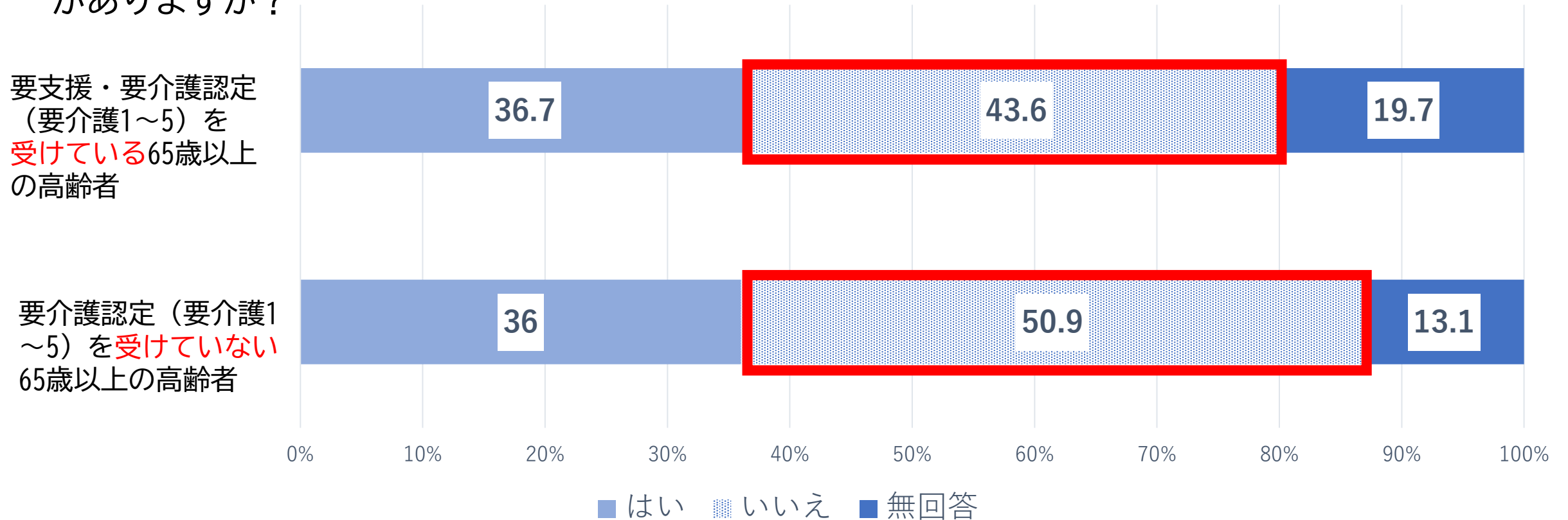
「在宅療養」（自宅に医師や看護師、ホームヘルパーなどに来てもらい、医療や介護を受けながら療養を送ること）について知っていましたか？



(1) 「市民啓発」について令和7年度の取り組みからみえた課題

市民がもしもの時のために、自身が望む医療やケアについて考えたことがある割合

命に関わる病気やケガといったもしもの時のために、自身が望む医療やケアについて考えたことがありますか？



(1) 「市民啓発」について令和7年度の取り組みからみえた課題

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
市民が在宅療養について理解する	市民公開講座アンケート満足度	93%	91.1%	84.8%	85%	98%↑
	出前講座実施回数	2回	3回	4回	5回	6回↑
	出前講座アンケート満足度 (年度平均)	—	—	97.2%	96.6%	91.2%↓
	市民在宅療養認知度★	—	—	非34.9% 介48.6%	—	—
	「もしもの時に望む医療やケアについて考えたことがある」と回答した市民の数★	—	—	非36.0% 介36.7%	—	—
	ACPを取り入れているケアマネ事業所の割合★	—	—	70.8%	—	—

★高齢者支援計画策定に合わせた高齢者等実態調査や介護事業所向けアンケート等より3年毎の指標

※「非」：要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者から無作為抽出された2,000人の回答者の割合

「介」：要支援・要介護認定を受けて在宅で生活している65歳以上の高齢者から無作為抽出された1,000人の回答者の割合

(1) 「市民啓発」について令和7年度の取り組みからみえた課題

◆市民公開講座

- ・若い人の参加が少なく、無関心層への普及啓発方法を工夫する必要がある。

◆おうち療養情報講座（行政出前講座）

- ・依頼は多かったので関心を持ってくれる市民は増えているかもしれないが、「人生会議（ACP）」について知っている人がまだ少ない印象がある。
- ・抵抗感を持つ市民への伝え方。マイルドに伝える伝え方に変えていく必要がある。
引き続き人生会議について市民に伝えていく必要がある。

取り組み
(案)

○対象者または年齢層に合わせた周知方法の検討

○必要な方がスムーズに情報にアクセスできるよう、多様な情報発信の方法の検討

（広報・ホームページ・SNSの掲載方法の見直し、動画の活用、在宅療養者の声等イメージの湧きやすい内容の検討）

○積極的な出前講座の実施（イベントでのミニ講話等）

【中期目標②人生会議（ACP）推進】

医療・介護の関係者が人生会議（ACP）に関する
意思決定支援を実践できる

(2) 「人生会議（ACP）推進」について令和7年度の取り組みからみえた課題

◆令和7年度在宅療養・看取り推進のための症例検討会アンケート

在宅看取りにおける課題より抜粋

- ・ 本人・家族が今後の生活をイメージすることの難しさ
- ・ **本人・家族の意向確認や希望に寄り添った支援**
- ・ 本人・家族と支援者の意識の差
- ・ スピーディーな調整

◆高齢者住まい看取りケア研修会アンケート

看取り支援における課題より抜粋

- ・ 支援者のチーム間での方針の共有
- ・ **本人・家族への声かけやコミュニケーション**
- ・ **本人・家族の意向確認や意向のすり合わせ**
- ・ 家族と支援者の思いの違い
- ・ 職員の看取りの経過やケアについての知識不足

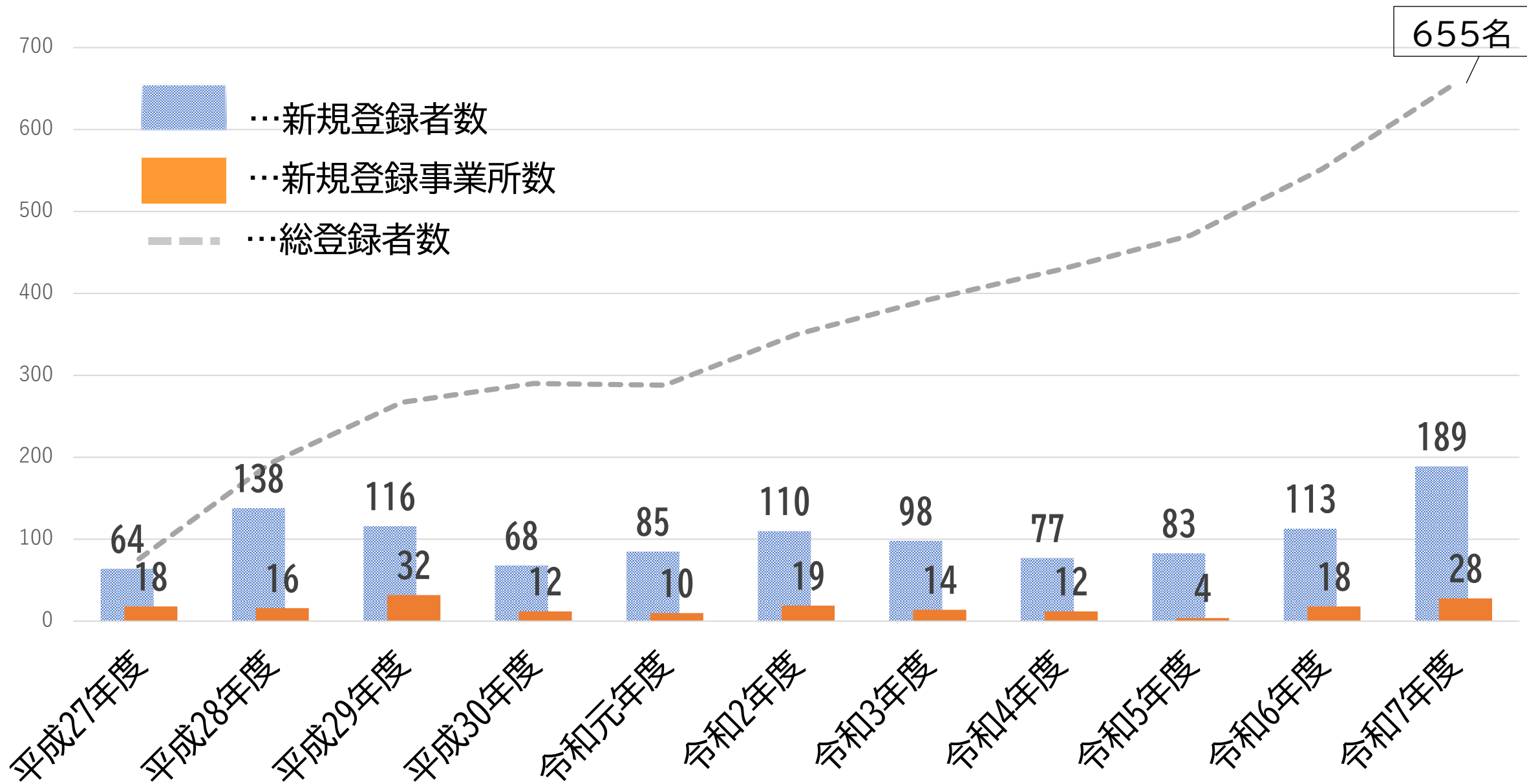
取り組み
(案)

- ・ 看取り症例検討会や高齢者住まい看取りケア研修会などでは、本人・家族とのコミュニケーション等、意思決定支援に課題を感じている専門職が多かった。
→意思決定支援に関して多職種で学べるような機会が必要

【中期目標③情報共有】

医療・介護の関係者間でスムーズに情報共有できる

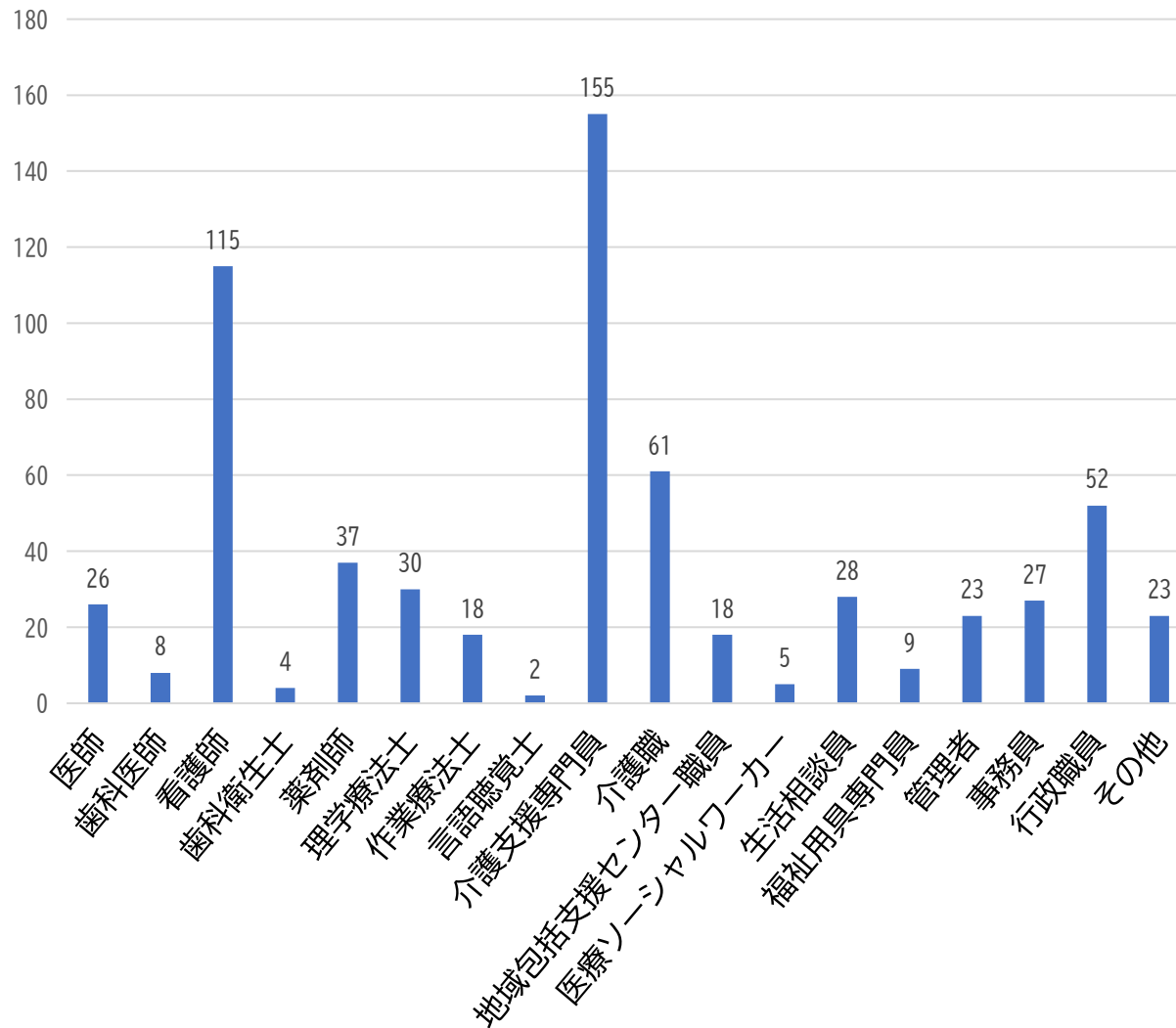
(3) 流山市情報共有システム（カナミック）登録状況



※令和7年度は3月5日時点の人数及び事業所数

(3) 流山市情報共有システム（カナミック）登録状況

情報共有システム登録者数（人）



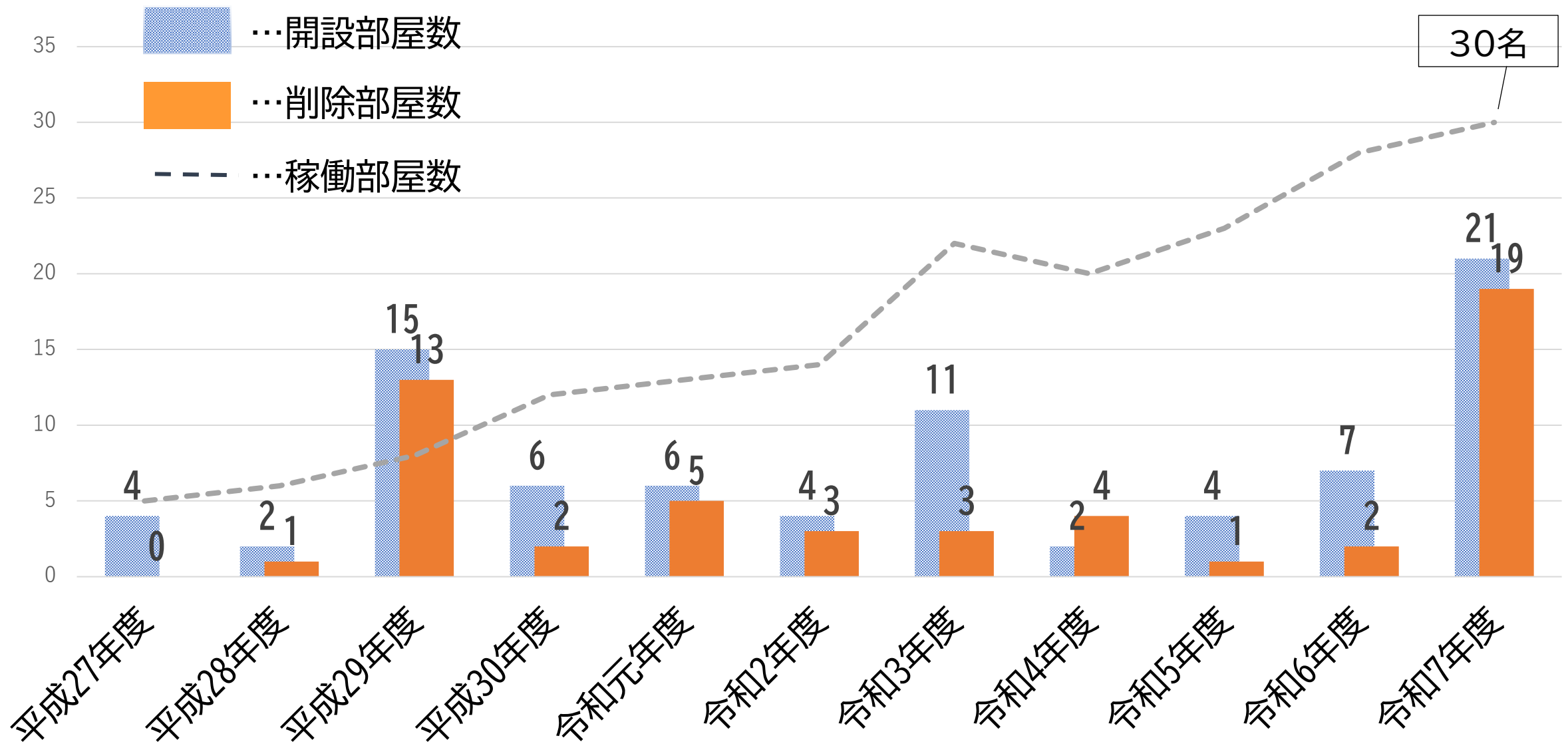
※令和8年2月末時点

情報共有システム登録率（%）

種別	登録事業所数	市内事業所数	登録率
行政	1	-	
病院	15	125	1%
訪問看護ステーション	11	27	41%
通所リハビリテーション	3	7	43%
訪問リハビリテーション	2	6	33%
居宅介護支援事業所	40	43	93%
薬局	13	70	18%
地域包括支援センター	5	5	100%
通所介護	17	42	40%
福祉用具	4	10	40%
訪問介護	22	51	43%
ショートステイ	5	19	26%
歯科医院	4	108	3%
訪問入浴介護	1	1	100%
定期巡回随時対応型訪問介護看護	2	2	100%
介護老人福祉施設	3	11	27%
介護老人保健施設	2	2	100%
相談支援事業所	1		
サ高住	1		
その他	5		
合計	157		

※登録事業所数は令和7年10月末時点、市内事業所数は令和7年9月時点の数となるため、登録率は参考値となります。29

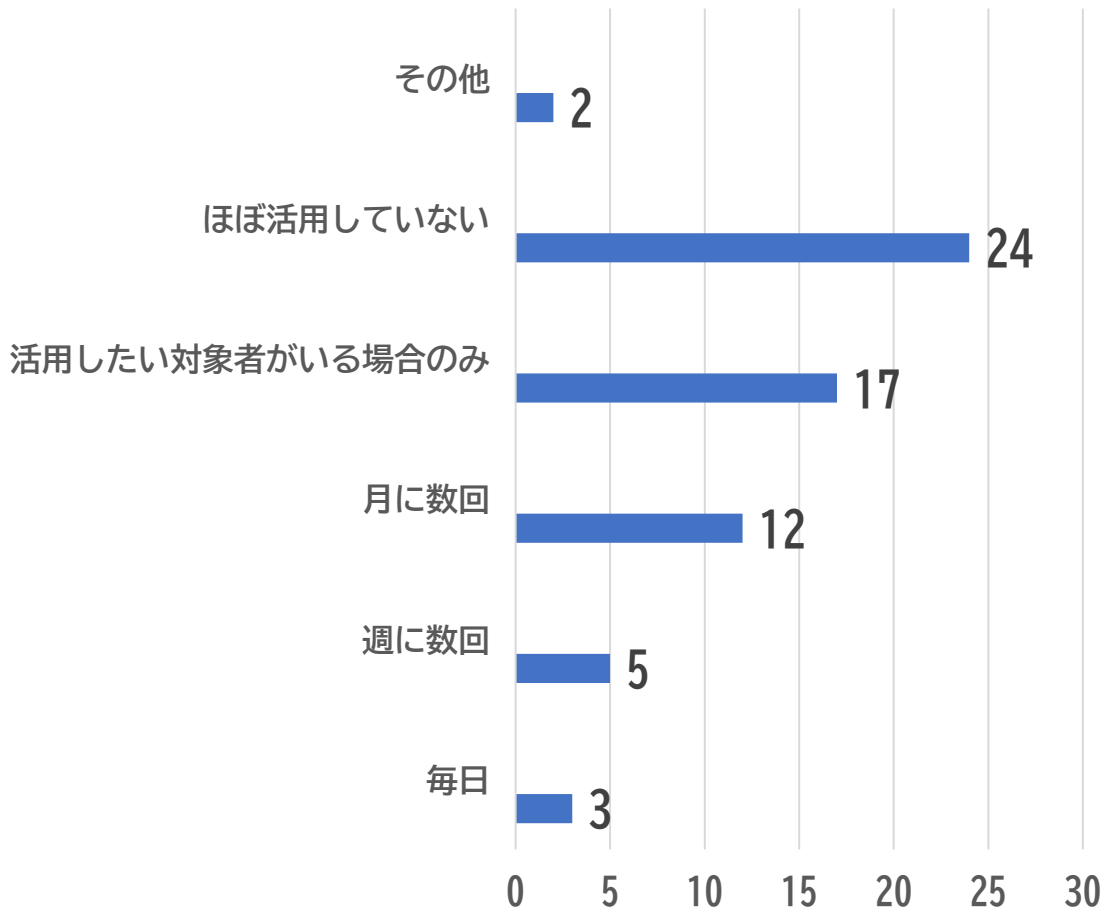
(3) 流山市情報共有システム（カナミック）登録状況



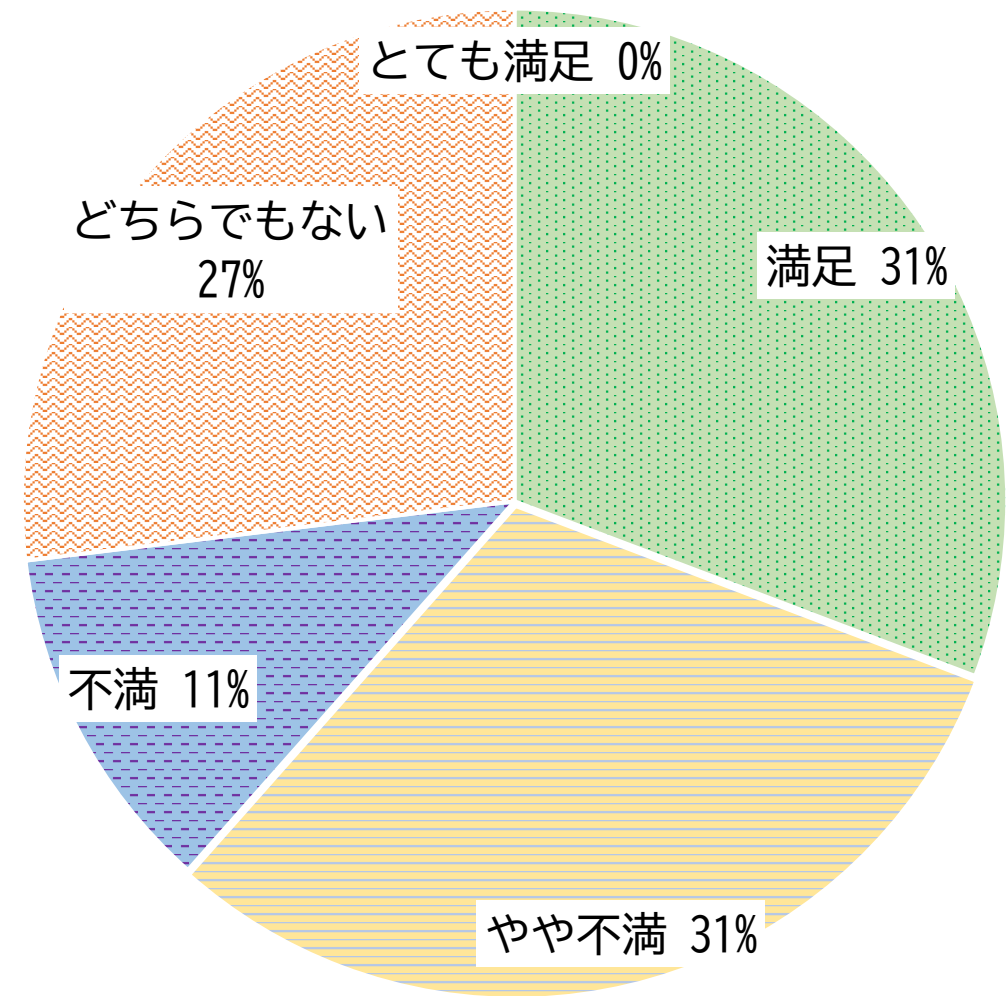
※令和7年度は3月5日時点の部屋数

(3) 令和7年度流山市情報共有システム活用に関するアンケート

情報共有システムの活用頻度



活用満足度



令和7年度システム活用に関するアンケートより

(3) 流山市連携型BCPにおけるカナミックの運用方法等について



流山市連携型 BCPさんの
部屋



	多職種間での情報共有	連携型BCP
IDの付与	個人ID	事業所ID
BCPへの参加	任意	義務
電子証明書	必要	不要
ログイン端末	決められた端末	どの端末でも可
個人情報の使用	可	不可

(3) 「情報共有」について令和7年度の取り組みからみえた課題


◆情報共有システムの活用

- ・登録者数は増加しているが、登録している職種に偏りがあることや、患者部屋開設など積極的に活用している人は少ないことなどから、システムの有効活用につながっていない。

◆流山版地域生活連携シートA表（ケアマネ→病院）の見直し

- ・FAX送信時に文字がつぶれてしまう。
- ・手書きよりチェックリスト形式の方が負担が少ない。
- ・人生会議（ACP）の欄は不明な場合が多い。

取り組み
(案)



【情報共有システム】

- ・登録率が低い種別の事業所への周知
- ・患者部屋開設手続き等の簡略化に向けた検討
- ・市からのお知らせの発信等、患者部屋以外の利用促進

【流山版地域生活連携シート】

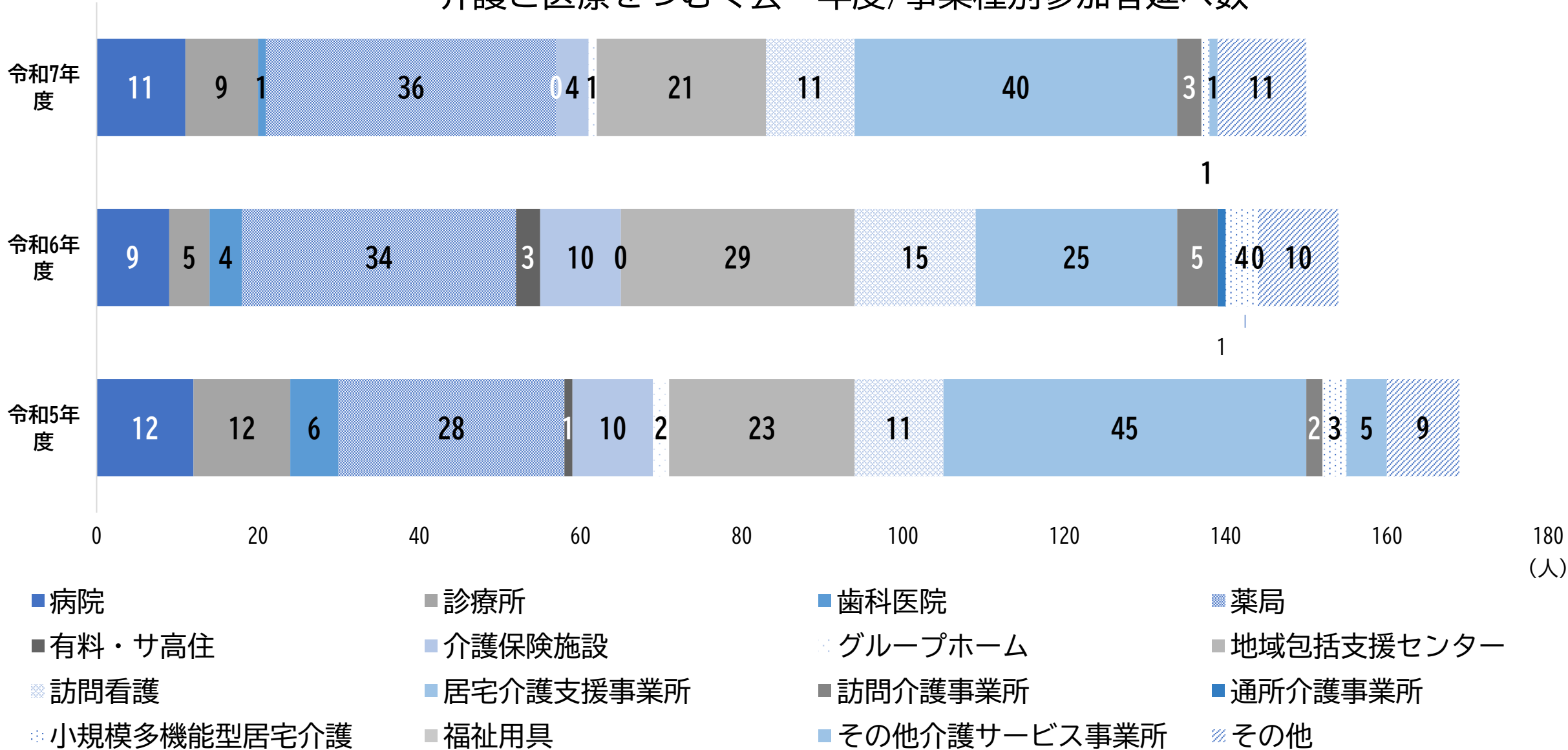
- ・シートの改訂と周知

【中期目標④多職種連携】

病院・在宅・施設・消防の関係者間で
連携を深めることができる

(4) 多職種連携について令和7年度の取り組みからみえた課題

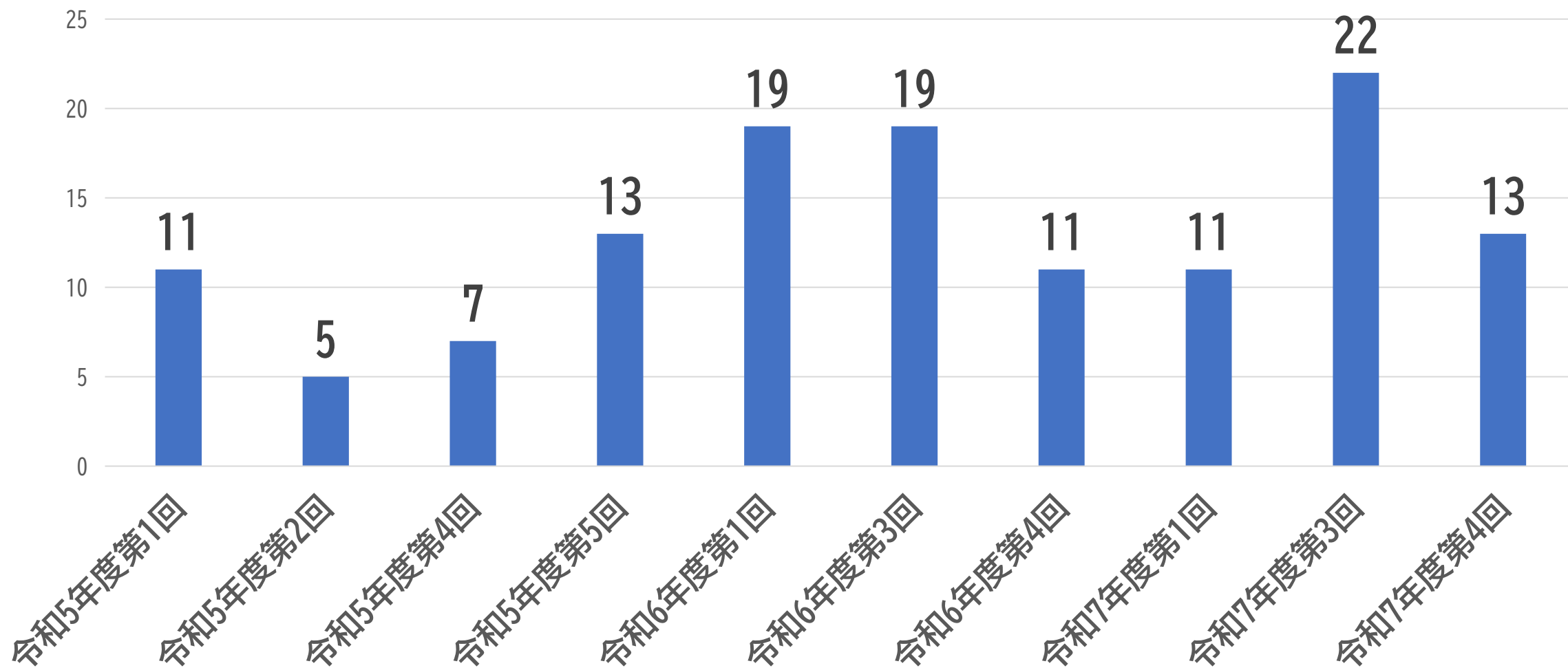
介護と医療をつむぐ会 年度/事業種別参加者延べ数



※市民公開講座は除く。令和6, 7年度は第1, 3, 4回の参加者数の合計。令和5年度は第1, 2, 4, 5回の参加者数の合計。

(4) 多職種連携について令和7年度の取り組みからみえた課題

つむぐ会に初めて参加した人数



※市民公開講座は除く。

(4) 多職種連携について令和7年度の取り組みからみえた課題

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
医療・介護の専門職の顔の見える 関係作りの体制を構築する 医療・介護の専門職の知識・技術 が向上する	つむぐ会参加人数（人/ 年）	340人	259人	263人	250人	251人↑
	つむぐ会アンケート満足度 （年度平均）	—	—	92.4%	95.3%	98%↑
	「多職種での連携が図れて いる」と回答した事業所★	—	—	79.2%	—	—

★高齢者支援計画策定に合わせた高齢者等実態調査や介護事業所向けアンケート等より3年毎の指標
 ※令和3年度から令和5年度は全5回の開催。令和6年度より全4回に変更。

(4) 多職種連携に関する令和7年度の取り組みからみえた課題

◆令和7年度在宅療養・看取り推進のための症例検討会アンケート（在宅看取りにおける課題より抜粋）

- ・医療との連携（複数回答あり）
- ・病院では完治を目指すので、入院が長引いてしまい本人、ご家族の意見が通らないと感ずることがある。どのような流れで在宅看取りを実施できるかスタッフの理解も必要と感じた。
- ・大学病院との連携の仕方、情報の共有

◆令和7年度つむぐ会 多職種で共有・検討したいテーマについて

- ・病院と地域間の関わりについて
（病院に相談や依頼が行いにくいところがあるとする為、意見を出し合いより良い関係を作りたい）
- ・病院を退院するときの連携

◆病院相談員連絡会・シルバー事業者連絡会居宅介護支援事業部会合同研修（グループワークより）

- ・ケアマネジャー：入院中の状況が分からない/大学病院等との連携が取りにくい
- ・医療機関：ケアマネジャーの介入の有無やタイミングの判断に迷う

取り組み
(案)

- ・コロナ禍を経て、病院-在宅間の連携促進に向けた取り組みにつなげるために各職種の現状や課題を把握する必要がある
- ・改訂版地域生活連携シートや入退院時多職種連携フロー表の周知
- ・互いの職種の役割の理解を深めるための取り組み（職能の活動の共有など）

(5) 災害時対応について令和7年度の取り組みからみえた課題

【取り組み】

- ◆地域支え合い活動及び要配慮者の個別避難計画作成について会議・研修会等で随時周知
- ◆流山市地域BCP策定に関する検討（安否確認の優先順位の決定、連携協定締結の実施）
- ◆訓練の実施（医療的ケア児の福祉避難所での実地訓練）
- ◆第4回介護と医療をつむぐ会で災害時対応をテーマに実施

【課題】

- ◆流山市地域BCPの周知
- ◆災害に関する意識やリスクの理解不足（福祉避難所を知らない、市内のハイリスク地域の把握等）
- ◆情報共有システムの利用率が低い
(連携型BCPで活用を想定したアカウントを付与されている市内介護保険事業所のアクセス率は数%)

取り組み
(案)

- ・災害に関する基本的な市の取り組みの共有
- ・流山市地域BCPに関わる職能団体への説明及び協力要請
- ・災害時対応に関する情報共有の場としてサービス担当者会議の活用推進
- ・情報共有システムの活用推進（安否確認・連携型BCP・地域型BCPでの活用）

◎部会に分かれて意見共有 19:35~20:25

- ・令和7年度事業評価

◎全体会 20:25~20:45

- ・各部会の協議事項の共有（各部会より発表）

令和8年度の年間予定

◆在宅医療介護連携会議

	開催日		時間	場所
第1回	令和8年	5月18日(月)	19:00~21:00	市役所第2庁舎3階 301・302会議室
第2回		7月22日(水)		
第3回		10月21日(水)		
第4回	令和9年	1月25日(月)		
第5回		3月17日(水)		